

平成 30 年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52204	小児保健 Health of the Infant	中島 志保	専門	2	選択	1 年後期

**科目の概要**

本科目は、子どもの心身の健康を保持・増進させることを目的とし、健康と安全の面から保育の専門家として必要な基本的知識を身に付ける。子どもの健康は、胎生期から関係しており、出生後は月年齢に応じた発育・発達の特徴がある。心身の発育・発達を身体発育と生理・運動・精神機能発達の面から理解し、子どもに見られる主な疾患の症状とその予防・対応、子どもの事故と安全について学ぶ。また小児保健統計や子どもを取り巻く環境から母子保健対策を理解し、保育者として家庭・専門機関・地域との連携について知る。そして子どもを理解するとともに、自らの健康管理の必要性に気づき、行動する意識がもてるようにする。

学修内容	到達目標
① 「子どもの健康」について考え、子どもの特性をふまえた保健活動の意義を理解する。小児保健統計や子どもを取り巻く環境から、親子をサポートする母子保健対策を理解し、保育者として家庭・専門機関・地域との連携の必要性を知る。 ② 胎生期から乳幼児期における身体発育と生理・運動・精神機能の発達を理解する。 ③ 子どもの健康状態の観察を知り、主な疾患の症状と予防・対応について理解する。また感染症対策について学び、保育者としての予防策を考える。 ④ 子どもの発達と事故の関係について理解し、保育所でおきやすい事故・ケガを予測し、安全管理について学ぶ ⑤ 子どもの健康の保持・増進のために、望ましい保育環境について理解する。	① 「子どもの健康」について述べるができる。 親子をサポートする母子保健対策、他職種との連携について述べるができる。 ② 発育・発達の原則、月年齢における発育・発達について述べるができる。 ③ 子どもの健康状態の観察項目および子どもに見られる主な疾患の症状とその予防・対応について述べるができる。 保育者自身の感染症予防の必要性とその行動について述べるができる。 ④ 子どもの発達と事故の特徴を述べるができる。保育所でおきやすい事故やけがを予測でき、その対策について例をあげるができる ⑤ 子どもの健康支援として望ましい保育環境を説明することができる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**

**学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	ア. 毎週予習を行い、授業内容を把握し授業に臨むことができる。 イ. 授業以外の時間を使い、課題に必要な知識について、テキストや文献を使って自己学修することができる
	働きかけ力	
	実行力	ア. 課題は必ず実践し、提出日を守る。 イ. 自ら健康について意識し、行動に移せる。
考え抜く力	課題発見力	ア. 苦手な部分を明らかにし、自分の課題を見つけ学修に取り組むことができる。 イ. 自分自身の健康に関心を持ち、日常生活上の問題点や課題を見つけ改善策を考えることができる。
	計画力	
	創造力	物事を考える時に、固定概念に捉われないこと、様々な方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	グループディスカッションにおいて、聞き手の顔や反応を見ながら発表できる。
	傾聴力	意見を聴く時は、うなずきやあいづちをし、途中で遮ることなく最後まで聴く。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	ア. 授業開始時には着席し授業を受ける準備を整えることができる。 イ. 無断欠席、遅刻、居眠り、私語、飲食、途中退室など講義や他の学生に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。(体調不良時は申し出ること) ウ. 授業終了時は、机上の消しゴムなどのゴミを片付け、整理整頓してから終えることができる。
	ストレスコントロール力	

**テキスト及び参考文献**

テキスト:「保育を学ぶ人のための 子どもの保健 I」堀 浩樹・梶 美保[編著] 建帛社 ¥2,100+税

参考文献:「保育所保育指針解説書」フレーベル社 ¥190+税

「保育所における感染症対策ガイドライン」(2012 年改訂版)厚生労働省、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(2011 年)厚生労働省

**他科目との関連、資格との関連**

他科目との関連:小児保健演習、子どもの食と栄養、子どもの精神保健 資格との関連:保育士

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の発育・発達や予防接種について、自身の母子健康手帳を見たり、家族で子どもの頃の話をする事で、理解を深めるとよい。</li> <li>・学習範囲が広く専門用語も多いため、テキスト・資料にて毎週予習・復習をしてください。</li> <li>・日頃から母子保健について関心を持ち、新聞やニュースなどから情報収集を心掛けるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・席は指定です。</li> <li>・授業開始時には着席し、授業に臨んでください。</li> <li>・携帯電話は電源を切り、カバンにしまっておくこと。</li> <li>・課題は授業開始前に必ず提出し、着席してください。</li> <li>・授業で配布する資料は予備がないため、紛失などした場合は他の学生からコピーさせてもらってください。欠席した場合、次の授業時に各自で取りにいくこと。</li> </ul>

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験	60	①	到達目標①②③④⑤に対応した、基礎的な知識を問う問題を出題し評価する。 1、課題レポート 2、シラバスの復習に記されている内容
		②	
		③	
		④	
		⑤	
小テスト			
レポート	30	①	各週において、課題はテーマ・内容(設問)など指定し、用紙を授業の資料とともに配布。 課題項目・内容については、シラバスに記載。 ・保育者としての基本的知識について正しく理解できている。 ・「母子保健サービス」「感染症」について、具体的に挙げまとめている。 ・「身体発育」は乳幼児身体発育曲線に正しくプロットできている、正しく計算し評価できている。 ・「子どもの視界」についてはチャイルドビジョンを作製し、子どもと大人の視界の違いについて考えたことをまとめることができている。危険箇所を自ら気付くことができている。 課題は次週の授業開始前に必ず提出すること。
		②	
		③	
		④	
		⑤	
成果発表 (口頭・実技)			
作品			
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	(規律性) 受講態度(遅刻、欠席、学修意欲欠如)が見られる場合は、1点×授業回数減点する。 (実行力) 課題未提出は、1課題1点減点する。 (主体性) 課題について、テキストや文献を使用し記述できている。 (課題発見力) 自分の苦手な部分を明確にし、学修や課題に取り組むことができる。 (創造力) グループディスカッションにて、他の学生の意見を自分の意見と比較しながら聴き、様々な方向から考える姿勢ができている。 (発信力) グループディスカッションにて、聞き手の顔や反応を見ながら発表できている。 (傾聴力) グループディスカッションにて、うなずきやあいづちなど話を聴く姿勢ができている。 (実行力) (課題発見力) 自分自身の健康に関心を持ち、日常生活上の問題点や課題を考え自己管理に取り組むことができる。
		②	
		③	
		④	
		⑤	
その他			
総合評価 割合	100		

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における母子保健対策を理解し、母子保健サービスと内容を説明できる(①) 地域との連携について具体的に述べることができる(②)</li> <li>・乳幼児の発育・発達の評価ができる(①) 保護者への支援を具体的に挙げることができる(②)</li> <li>・子どもの健康観察のポイントを説明でき、異常症状の特徴と対応を説明できる。疾患の特徴・予防・対応について説明できる(①) 必要に応じて保護者や専門機関との連携の必要性を具体的に説明できる(②)</li> <li>・感染三大要因とその対策について、具体的に説明できる。感染症の特徴と登園停止期間、予防接種の種類について説明できる(①) 予防接種の接種時期及び間隔について具体的に述べることができる(②)</li> <li>・子どもの発達と事故の関係を認識し、保育現場における事故防止と安全対策について具体的に説明できる。環境衛生の基準を具体的に説明できる(①) 保育環境における衛生管理と安全管理について具体的に説明できる(②)</li> <li>・子どもの健康の保持・増進のための保健計画の意義について説明できる(①) 保健計画の立案と関係機関との連携について具体的に説明できる(②)</li> </ul> <p>S(秀)①+②、A(優)①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における母子保健対策について、母子保健サービスを挙げることができる(①) 地域との連携の必要性を挙げることができる(②)</li> <li>・発育・発達の原則を説明できる(①) 原則と発達の経過を結び付けることができる。発育・発達の評価を挙げることができる(②)</li> <li>・子どもの健康観察の項目を挙げることができる(①) 異常症状とその対応について述べることができる(②)</li> <li>・感染症と感染三大要因を挙げることができる(①) 感染症と予防接種を関連させて挙げることができる。感染症の登園停止期間が説明できる(②)</li> <li>・子どもの発達から事故を挙げることができる。また環境衛生の基準(項目)を挙げることができる(①) 事故を予測し、対策を述べることができる。また保育環境における衛生管理と安全管理の必要性を述べることができる(②)</li> <li>・子どもの健康の保持・増進のため保健活動の内容を挙げることができる(①) 保健活動と家庭との連携について説明できる(②)</li> </ul> <p>B(良)①+②、C(可)①</p>

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベル C(可)の 基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
1週 /	子どもと保育保健、小児保健統計 ・子どもの定義と保育実践を支える関連法を知り、「子どもの保健」を学ぶ意義を理解する。 ・子どもの健康の考え方を理解する。 ・子どもにかかわる諸統計から子どもの健康水準と取り巻く環境を知る。 ・母子保健法に規定されている内容を知る。	講義	・子どもの定義と区分を説明できる。 ・子どもの健康について述べることができる。 ・母子保健法に示される目的を述べることができる。	◎次週予習:記載されたテキストのページを読み、授業内容を把握してくること ◎復習:テキスト・資料で授業内容を見直す。(その他を各回に示す。) (1週予習)P1~13 (復習)①テキスト・資料を見直す。②「子どもの定義」「子どもの健康」「自治体の母子保健サービス(調べる)」についてまとめ、次回提出。③自分自身の日常生活をふり返り、健康にむけての行動目標を挙げる。 (予習)P15~20、理科で学習した体の各器官の名称と働きを確認してくる。	180	主体性 課題発見力 規律性
2週 /	子どもの成長と発達① ・身体各部の名称、体の器官の位置・名称・働きを理解する。 ・成長・発達・発育の意味と評価の目的を理解する。 ・妊娠経過に応じた胎児の発育、母体の健康と胎児への影響を知る。	講義 ・授業開始時に課題内容「子どもの定義」「子どもの健康」をふり返る(フィードバック)	・成長・発達・発育の意味を説明できる。 ・身体各部の名称と体の各器官の位置・名称を述べるができる。	(復習)①成長・発達・発育の意味を覚える。②身体各部の名称と体の器官の名称と働きをまとめ、次回提出。一次週の内容につながる (予習)P21~28	180	主体性 課題発見力
3週 /	子どもの成長・発達② ・生理機能(体温、血液循環、呼吸、消化、排泄、免疫、睡眠)の発達について理解する。	講義 ・成長・発達・発育の意味を口頭にて質問する(フィードバック)	・乳幼児期の体温、呼吸、脈拍の特徴を述べるができる。 ・乳幼児期の消化吸収、排泄、睡眠の特徴を述べるができる。	(復習)①乳幼児期の生理機能の特徴を整理しておく。②乳幼児期の体温、呼吸、脈拍の特徴と正常値をまとめ、次回提出。特徴を覚える。 (予習)P31~35	180	主体性 実行力
4週 /	子どもの成長・発達③ ・身体発育(身長、体重、胸囲、頭囲)について学ぶ。身体発育の評価(乳幼児身体発育曲線・肥満度・カウプ指数)を理解する。	講義 ・課題返却:身体各部の名称と各器官の名称についてふり返る(フィードバック)	・月年齢に応じた身長・体重の発育が説明できる。 ・乳幼児身体発育曲線に計測値をプロットできる。 ・カウプ指数の計算式が説明できる。	(復習)①月年齢における身体発育の増加を覚える。②(事例)身体計測値を乳幼児身体発育曲線にプロットし、発育を評価する。カウプ指数を計算し発育状況を判定する。次回提出。(母子健康手帳にて自身の身体発育を確認するとよい。) (予習)P29~31、36~44	180	主体性 課題発見力 創造力
5週 /	子どもの発育・発達④ ・運動機能の発達の原則を理解し、乳幼児期の月年齢に応じた運動機能の発達経過を学ぶ。 ・歯と骨の発育、感覚器(視覚・聴覚)の発達について理解する。	講義、DVD視聴 ・課題返却:乳幼児期の体温、呼吸、脈拍の特徴と正常値をふり返る(フィードバック)	・運動機能の発達の原則について説明できる。 ・発達の原則に基づき、乳幼児期の発達順序について説明できる。 ・歯の萌出時期が言える。	(復習)①運動機能の発達の原則、乳幼児期の運動機能の発達経過、歯の発育をまとめ、次回提出。発育・発達を覚える。②感覚器と他の発達との関連を整理しておく。(母子健康手帳の記録から自身の運動機能の発達を確認するとよい。) (予習)P44~53	180	主体性
6週 /	子どもの発育・発達⑤ ・精神機能(言語、情緒、社会性)の発達について理解する。 ・子どもの発達の評価について知る。	講義、DVD視聴 ・課題返却:(事例)乳幼児身体発育曲線のプロット、カウプ指数及び発育状況を判定をふり返る(フィードバック)	・言語の発達経過について説明できる。 ・乳児と養育者の愛着形成について説明できる。 ・社会性の発達からみた遊びの種類を挙げるができる。	(復習)①言語の発達経過を覚える。②愛着形成と情緒・社会性の発達についてまとめる。①②まとめ、次回提出。(母子健康手帳の保護者の記録から自身の精神機能の発達を確認するとよい。) (予習)P55~66、131~134、150~152	180	主体性
7週 /	子どもの精神保健 ・保育者が会える可能性の高い「特別な配慮が必要な子ども」(心身症、問題行動、習癖異常、児童虐待、発達障害など)を知り、子どものこころの発達を支える保育者のかかわりを学ぶ。 ・児童虐待について、現状と保育者の役割について理解する。	講義 ・課題返却:運動機能の発達の原則、乳幼児期の運動機能の発達経過、歯の発育をふり返る(フィードバック)	・特別な配慮が必要な子どもの行動を挙げるができる。 ・児童虐待の現状を述べるができる。児童虐待の分類が説明できる。	(復習)①心身症・問題行動・習癖異常・発達障害の種類と保育者のかかわり②児童虐待の現状を見直し、分類・要因・対応についてまとめ、次回提出。 (予習)P69~85	180	主体性 課題発見力

能力名:主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベルC(可)の 基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
8週 /	子どもの生活と保健 ・乳児期の乳汁栄養、発達段階と食の形態の変化(離乳食)について理解する。 ・子どもの食生活の問題を知り、保育所における食育について理解する。	講義 ・課題返却:言語の発達経過、愛着形成と情緒・社会性の発達についてふり返る(フィードバック)	・乳汁栄養の種類を挙げることができる。 ・発達段階に応じた食の形態の変化について述べるができる。	(復習)①乳汁栄養の種類と発達段階による食の形態の変化についてまとめ、次回提出。乳汁栄養について覚える。②基本的生活習慣(食・排泄・衣服の着脱・清潔・睡眠)についてテキストと資料を見直す。 (予習)P87~95、104~108	180	主体性 課題発 見力
9週 /	子どもの病気と保育① ・感染症発生の三大要因と対策を理解する。 ・子どもがかかりやすい感染症(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、伝染性紅斑、手足口病など)の特徴を理解する。 ・予防接種と学校感染症(出席停止期間)を理解する。	講義、DVD視聴 ・課題返却:心身症・問題行動・習癖異常・発達障害の種類と保育者のかかわり、児童虐待の現状を見直し、分類・要因・対応についてふり返る(フィードバック)	・感染症発生の三大要因と対策を挙げることができる。 ・子どもがかかりやすい感染症を挙げることができる。	(復習)①感染症の潜伏期間・症状・感染経路・予防・登園停止期間についてまとめ、次回提出。症状と予防接種・登園停止期間を覚える。②感染の三大要因と対策を覚える。 (予習)P95~98、129~130、135	180	主体性 課題発 見力
10週 /	子どもの病気と保育② ・アレルギー疾患(アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支喘息)の症状や対応について学ぶ。 ・アナフィラキシーとアナフィラキシーショックを理解し、エピペンの取り扱いを覚える。	講義、演習(エピペンの取り扱いについて) ・課題返却:乳汁栄養の種類と発達段階による食の形態の変化についてふり返る(フィードバック)	・アレルギー疾患とその症状を述べるができる。 ・エピペンの接種部位が言える。	(復習)アレルギー疾患の症状と対応についてまとめ、次回提出。各疾患の対応を覚える。 (予習)P98~103、121~125、129	180	主体性 実行力 課題発 見力
11週 /	子どもの病気と保育③ ・慢性疾患(先天異常、消化器疾患、循環器疾患、腎・尿路系疾患、整形外科疾患など)の症状や特徴を知る。 ・子どもの健康観察のポイントを理解し、子どもによく見られる異常症状(発熱、下痢、嘔吐、咳など)と対応、保育所における薬の取り扱いについて学ぶ。	講義 ・課題返却:感染症の潜伏期間・症状・感染経路・予防・登園停止期間についてふり返る(フィードバック)	・子どもにみられる慢性疾患を挙げることができる。 ・健康観察の項目が挙げることができる。 ・子どもによく見られる異常症状を挙げることができる。 ・薬を預かる時の注意点を挙げることができる。	(復習)①慢性疾患の特徴②健康観察のポイント、異常症状の対応についてまとめ、次回提出。異常症状の対応のポイントを覚える。 (予習)P116~119、126~128	180	主体性 課題発 見力
12週 /	子どもと事故 ・子どもの発達と事故との関係を理解し、月年齢別にみた保育所での事故を考える。 ・子どもに多いケガ(創傷、鼻出血、頭部外傷、火傷、誤飲など)を知り、その対処を学ぶ。	講義 ・課題返却:アレルギー疾患の症状と対応についてふり返る(フィードバック)	・子どもの発育・発達からおきやすい事故を挙げることができる。 ・年齢別にみた保育所での事故とケガを挙げることができる。	(復習)①年齢階級別による不慮の事故の死因順位、こどもの発達と事故との関係について覚える。②子どもに多いケガと対処についてまとめ、次回提出。 (予習)P119~120	180	主体性 創造力
13週 /	保育環境① ・保育所でおきやすい事故から、子どもへの配慮、屋内・屋外の安全対策について考える。 ・保育所における災害・不審者に対する訓練について学ぶ。	講義、グループワーク 「(事例)保育所での危険箇所と事故」を見つめる ・課題返却:慢性疾患の特徴と保育者の役割、健康観察のポイント、異常症状の対応についてふり返る(フィードバック)	・大人と子どもの視界の違いがわかる。 ・屋内の危険箇所を挙げることができる。	(復習)屋内・屋外における危険箇所を見直し、安全対策についてまとめる。防災訓練・不審者訓練のポイントをまとめる。 ・チャイルドビジョンを作製し、子どもの視界を体験し、自宅での危険場所と事故について挙げる。次回提出。 (予習)P109~116	180	創造力 発信力 傾聴力
14週 /	保育環境② ・のぞましい保育環境について、環境衛生の基準を知る。 ・保育現場における職員、屋内、屋外の衛生管理を理解する。	講義 ・課題返却:子どもに多いケガと対処についてふり返る(フィードバック)	・保育環境の日常点検の項目と環境衛生の基準(温度、湿度、換気)を挙げることができる。 ・保育現場における職員の衛生について挙げることができる。	(復習)日常点検と基準、屋内・屋外の衛生管理についてまとめる。職員の衛生管理を見直す。自身の日常生活上の課題をふり返り、まとめる。次回提出。 (予習)P137~150	180	主体性 実行力
15週 /	健やかな育ちのために ・子どもの健康の保持・増進のために必要な保健活動と保健計画について学ぶ。 ・子どもの健康に関する国の施策と母子保健対策(母子保健サービス)について理解する。 ・職員の連携と家庭、専門機関、地域との連携について学ぶ。	講義、グループワーク 「母子保健サービス」について意見を出し合う。 ・課題返却:自宅での危険場所と事故についてふり返る(フィードバック)	・保健活動の内容を挙げることができる。 ・母子保健サービスの項目を挙げることができる。	(復習)保健活動の内容と家庭との連携について見直す。母子保健対策と地域との連携について見直す。	180	主体性 発信力

能力名:主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力